

感動の場

『男と仔馬』
1953 年 小川原 脩 画



動物の画家として知られる小川原脩は、1955 年の全道展の画集に「若い頃からの仕事を振り返ってみると、花とか静物とか風景とか云うものを私はそんなに数多くは描いていない。私には私風の好みがあって動物とか、人間とかが好きだ。人間や馬や牛や熊やにわとりを描いていると、とても楽しい。」と、ことばを残しています。

この作品には赤と緑と白の絵の具で濃淡をつけた背景に、小川原の好んだモチーフがふたつ描かれています。白い仔馬は歯に力を込め、足を蹴り上げ体ごと前に進もうとしているのでしょうか。一方で日焼けした精悍な顔つきの男は腕を組み、何かを見据えているようです。それぞれが動と静の対照的な姿を見せています。ふたつのモチーフは 1951 年に、日本国内で第 2 次ブームとなったキュビズム（立体派）の特徴である立体を面で捉え輪郭をくっきり描くことで仔馬と男の骨格や筋肉を力強く生き生きと表現しています。

東京を離れた年に終戦を迎え、中央画壇から身を引いた小川原でしたが、その後は郷里・倶知安で北方性豊かなモチーフを作品にして札幌や東京での個展を開き、地方の文化芸術を発信し続けたのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ハネナガフキバッタの大発生

ふるさと探訪

521 回

今年はバッタ、特にハネナガフキバッタをたくさん見かけます。河川敷や草地、林道などでは、歩くたびに数えきれないほどの本種が一斉に飛び立ちます。

フキバッタ類のほとんどの種は翅が短いため移動範囲が限られますが、例外的に長い翅を持つハネナガフキバッタは、北海道から九州まで広く分布しています。

バッタの大発生の主な要因は卵や幼虫の生存率が上がることです。発生前年の冬期の土壌凍結が少ないことや、初夏に高温や日照が続くこと、河川敷など産卵適地で雨や洪水が少ないことなどが挙げられます。

普段はフキやイタドリ、ヨモギ、ハンノキといった野草や樹木の葉を好んで食べるため農作物に甚大な被害を与えることは少ないものの、大発生すると、時にダイズやアズキ、ゴボウ、アブラナ、ソバなどを食害します。これまで十勝地方ではしばしば大発生しており、中でも鹿追町で 1980（昭和 55）年 6 月の大発生が顕著な例です。あまりの虫の多さに、駆除にあたっては役場や農業協同組合の職員のほか、陸上自衛隊も出動して、雑草の刈り取りや樹木の伐倒、焼き払い、農薬散布などを行い終息させたようです。

今年のバッタの大発生から、このようなことが起きてしまうのでしょうか。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲フキバッタ類の多くは翅が短い
（写真はミカドフキバッタの成虫）



▲ハネナガフキバッタのペア

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「アジアの大地」

会期：開催中～9 月 23 日（水・祝）

■第 2 展示室

しりべしミュージアムロード共同展「しりべしザワザワ」

小川原脩記念美術館のテーマは「動物たちのいるところ」。

小川原脩、木田金次郎、西村計雄が描いた動物たちの作品を展示します。

会期：開催中～9 月 23 日（水・祝）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

「特別展・神田日勝を振り返って」

7 月 12 日まで開催されていた特別展出品の神田日勝作品についてお話しします。

日時：9 月 12 日（土）14 時～14 時 45 分

会場：映像ルーム（無料・予約不要）

講師：金澤逸子（学芸スタッフ）

■ミュージアム・コンサート

友の会アフタヌーンコンサート

南米アンデス地方の伝統楽器が奏でる音色をお楽しみください。

日時：9 月 19 日（土）14 時～15 時

会場：ロビー（観覧無料・予約不要・70 席）

出演：カリンパニ

石山耕太さん（サンポーニャ）、三浦秀一さん（ギター・ボーカル）

金井路子さん（ケーナ・ピアノ）、金井勇人さん（パーカッション）

倶知安風土館のお知らせ

■KODOMO 湿地交流「美唄×倶知安 宮島沼に遊んで学ぶ！」

倶知安と美唄、異なる自然環境で活動する子どもたちの交流です。

今回はくっちゃん子が美唄市のラムサール湿地・宮島沼を訪れ、宮島沼の歴史や、自然環境について学びます。

対象：町内在住の小学 5 年生～高校 3 年生

日時：9 月 26 日（土）9 時 30 分～27 日（日）17 時

場所：宮島沼水鳥・湿地センター（美唄市西美唄町大曲 3 区）

集合：倶知安風土館駐車場

持ち物：申し込み後に持ち物リストを発送予定

定員：8 名 参加費：千円 ※要予約（9 月 18 日（金）まで）

予約申込：倶知安風土館 ☎ 22—6631

■倶知安いきもの調査隊

「第 5 回 外来種・マダラコウラナメクジを探せ！」

ヨーロッパ原産のマダラコウラナメクジを捕まえます。参加者にはマダラコウラナメクジグッズをプレゼントします。

日時：9 月 13 日（日）10 時～12 時

集合：百年の森公園 定員：なし（参加無料・予約不要）

持ち物：軍手、割り箸、飲み物、帽子など

講師：小田桐亮（風土館学芸員）、廣川 大恒（百年の森管理人）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円 [400 円]

高校生 300 円 [200 円]

小中学生 100 円 [50 円]

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円 [100 円]

高校生以下、美術館観覧者無料

※年間パスポート 500 円

※[] 内は 10 名以上の団体料金

開館時間は 9 時～17 時（最終入館 16 時 30 分）

9 月の休館日 毎週火曜日（22 日休は祝日のため開館）

美術館のみ 24 日休～10 月 2 日休（展示替え）

* 10 月 3 日（土）は展覧会初日のため美術館観覧無料

ワークショップ

美術館では展覧会を開催する以外にも、美術館を訪れる皆さんに自分だけの作品を作る楽しさを体験していただくイベントとして、ワークショップを開催しています。

ゴールドデンウィークに開催した「こいのぼりをつくろう」のほか、おとなの手しごと「まめ本づくり」や「折り染め」、美術館・風土館コラボイベント共同ワークショップ「おさんぽビンゴとスタンプ遊び」など、子どもから大人まで楽しめるイベントを開催しています。

この文章だけではどんなイベントかは伝わりませんので、ぜひ参加してみてください。開催情報は広報くっちゃんのミュージアム通信「アート・イベントのお知らせ」や町ホームページの小川原脩記念美術館のページでご確認いただけます。

なお、風土館で開催している「寺子屋ミュージアム」も、野外活動や工作活動を楽しみながら、倶知安の自然や歴史について学べる小中学生向けの体験学習型イベントですので、こちらへの参加もお待ちしております。

このようなイベントを通じて、美術館・風土館が気軽にご利用いただける場所になれば嬉しいです。

館長 高橋 淳之